

「福井新々元気宣言」推進に関する政策合意

私は、知事の政策スタッフとして、「福井県民の将来ビジョン」に基づき、「福井新々元気宣言」の「元気な産業」、「元気な社会」、「元気な県土」、「元気な県政」に掲げられた政策等を実現するため、県民の理解と参加を得ながら、責任を持って職務を遂行し、次に掲げる施策・事業について重点的に実施することを西川一誠知事と合意します。

平成24年4月

福井県知事 西川 一 誠

観光営業部長 伊 藤 恵 造

I 24年度の基本方針

「にっぽんのふるさと」福井の発信を徹底します。

歴史・文化、景観、食、人と人のつながりや絆など、本県に世代を超えて引き継がれている「日本の良さ」を、ブランド・観光の営業資源の中心に据え、個々の地域資源の魅力をさらに高めながら、「にっぽんのふるさと」福井を国内外に発信します。

新高速交通ネットワーク活用・対策を着実に実行します。

北陸新幹線金沢開業や舞鶴若狭自動車道全線開通の効果を最大活用するため、恐竜キッズランド構想や一乗谷朝倉氏遺跡等の観光拠点化を推進するほか、ふくいドットコムのリニューアルを急ぐなど「新高速交通ネットワーク活用・対策プラン」に掲げたプロジェクトをスピード感をもって目に見える形で着実に実行します。

ふくいの「食」のブランド化と販路拡大を進めます。

全国に誇るふくいの「食」のレベルを上げ、ブランド化を進めるとともに、「食」を切り口とした観光誘客を拡大します。また、国内外でふくいの「食」を売り込み、県産食材の販路拡大を進めます。

安心して帰住できる仕組みをつくります。

市町と共働して、空き家を活用した定住・交流施設の整備を図るなど、ふるさと政策のトップランナーとして、ふるさと帰住政策をさらに強力に推進します。また、ふるさと納税については、制度の提案県として、より利用しやすい制度になるよう制度改正をさらに国に働きかけるほか、本県が先頭に立って、一層の普及、定着を進めます。

文化施設のレベルアップを着実に進めます。

歴史博物館や美術館、若狭歴史民俗資料館、一乗谷朝倉氏遺跡資料館における魅力ある企画展の開催、未公開収蔵品等の特別公開など、観光拠点施設としてのレベルアップを進め、県内外からの誘客を拡大します。

Ⅱ 24年度の施策

1 観光とブランドを産業の柱に

◇ ブランド拡大の営業戦略

・「ブランド営業」政策

客観的な良さを持っていながら、あまり全国に知られていない県産品を権威ある第三者等に評価していただき、全国発信する「もっと日本一プロジェクト」を着実に展開します。

福井を舞台と設定する、国民的テレビ番組や映画、書籍、CMロケ地などの誘致・企画実現に努め、パブリシティ（無償）と併せた効果的な情報発信の機会を増加させます。

特に、映画制作支援を通じて、本県を訪れる映画出演者や監督などの関係者との絆を深め、新たな福井ファンを増やし、映画とともに「つながりのふるさと」福井を全国に発信します。

「新しい日本一ブランド」の創造	3 件
福井を舞台と設定する国民的テレビ番組、映画、書籍、CM等	制作決定 2 件 企画実現 3 件
県全体でのパブリシティ広告費換算効果 (平成 23 年度 約 16 億円)	18 億円

・ダントツ日本一「恐竜王国」を目指して

化石発掘現場で恐竜の実物足跡化石を展示する「野外博物館」が平成 26 年夏までに開館できるよう着実に建設準備を進めます。地元市や民間企業と「レプリカ工房」や「恐竜ショップ」など誘客の受け皿づくりの整備も具体化させ、「恐竜溪谷 100 万人構想」の実現を進めます。

恐竜博物館においては、平成 25 年春からのカマラサウルス展示に先行した組立経過の紹介や、特別展を拡充した「恐竜・地質科学フェスタ（仮称）」の開催、展示の面白さを深く感動的に伝える「見どころダイノツアー（仮称）」の実施など、博物館のさらなる魅力アップを図ります。

また、新たな恐竜ブランド商品の開発や、キャラクター無償貸与による魅力的な商品化の促進、恐竜骨格の貸出し・監修先の拡大など、官民の知恵、技術、資金を組み合わせ、恐竜のブランドビジネスを確立します。

学術面では、恐竜博物館を、アジア最大の恐竜研究拠点として確立するため、世界各国の学術拠点と連携し、「アジア恐竜学会（仮称）」の平成26年度設立に向けて準備を進めます。また、平成26年度からの第4次発掘調査に備えた現地調査を着実に進めます。

恐竜博物館の入館者数	55万人
（平成23年度 51.5万人）	チャレンジ目標 60万人
ブランドビジネスの売上規模	20百万円
（平成23年度 15百万円）	

・「一乗谷朝倉氏遺跡」を日本一のフィールドミュージアムに

「一乗谷朝倉氏遺跡」が日本一のフィールドミュージアムとなるよう、遺跡全体の魅力を一層高めていきます。

今年度は、「一乗谷朝倉氏遺跡資料館」において、未公開の「逸品」特別展示や、ゲートサインの設置を行うほか、遺跡内では、ガイド付き周遊バスの運行（4月28日から）や「物見台」の整備（7月）、音声案内システムを試行的に導入し、来訪者のサービスを拡充します。

一乗谷朝倉氏遺跡資料館の入館者数	50,000人
（平成23年度 37,281人）	

・「食」ブランド化の推進と販路拡大

情報発信力のある「食」の分野の第一人者や大手企業、各種広報媒体等とのつながりを強化し、旬に応じて、全国に誇るふくい「食」を国内外に発信します。

素材にこだわる都市圏の一流ホテルや有名店などに旬の食材を売り込む「外商活動（アタック１００）」にチャレンジし、県産食材使用店の拡大と定着を進めます。また、海外見本市での売り込みなど、海外における外商活動を促進し、県産食材の輸出拡大を進めます。

飲食業者への売り込みによる新規契約成立件数（累計）	90件
（平成23年度末 75件）	
東アジアへの県産食材の輸出額	900万円
（平成23年度 807万円）	チャレンジ目標 1,000万円

◇ 観光を福井のリーディング産業へ

・観光地のスケールアップ（観光客200万人増）【部局連携】

北陸新幹線金沢開業および舞鶴若狭自動車道全線開通に伴う交流人口の拡大の効果を最大限得られるよう、「にっぽんのふるさと」福井が誇る美味しい食、歴史・文化、海などの自然を活かした、新たな体験メニューの発掘やまちなか等を周遊する仕組みづくりを進め、本県の魅力アップを進めます。

また、伝統的な町並みや自然景観などを活かして観光地の魅力を高める「観光まちづくり計画」を、市町・民間事業者等とともに策定し、平成26年度に向けて観光拠点整備を進めます。

JR等により来県する観光客の利便性を高めるため、あわら温泉を拠点に恐竜博物館・永平寺等への直行バスの実証運行を夏までに行うほか、東尋坊・三国湊等を周遊する循環バスの有効活用を図り、誘客拡大につなげます。

また、若狭の普段見ることができない文化財を秋に集中的に公開するとともに、それらを巡る周遊バスを運行します。

観光客入込数	1,100万人
（平成23年 980万人）	チャレンジ目標 1,150万人
観光消費額	870億円
（平成23年 794億円）	チャレンジ目標 900億円

・観光情報発信と誘客プロモーションの強化

観光事業者やＪＲ、ＮＥＸＣＯ等と連携し、北関東や信越、中・四国など新たなエリアにおいて、メディアや旅行会社を活用した誘客プロモーションを強化します。

本県の観光情報ポータルサイト「ふくいドットコム」のリニューアルを急ぎ、旬の魚や野菜など「食」の情報や福井に宿泊した翌日の観光情報・個店情報など、観光客が知りたい情報を確実に提供するほか、スマートフォンや動画を活用した情報発信も行います。

ふくいドットコムへのアクセス件数 (平成２３年度 ７５万件)	１００万件
-----------------------------------	-------

・広域新観光の推進

石川県とは、加賀地域と連携し、新幹線沿線エリアに大型広告を掲出することなどにより、越前加賀エリアへの誘客を促進します。

岐阜県とは、白山周遊キャンペーンの実施のほか、越前美濃街道沿線四市の販促イベントや両県ゆかりの杉原千畝を活かした「人道クルーズ」の運航を通じ、交流拡大を行います。

滋賀県、京都府とは、舞鶴若狭自動車道を活用した戦国ゆかりの観光地を巡る歴史街道周遊ルートの企画や地域の食材を活用した新メニューの開発などにより、連携を深めます。

また、外国人観光客が利用する「ミシュラングリーンガイドジャポン」への本県の観光地の掲載を目指します。

共同で企画するイベント、旅行商品の数 (平成２３年度 ３１件)	４０件
------------------------------------	-----

・「福井がわかる」ニューツーリズムの推進【部局連携】

「日本の良さ」や「日本人の良さ」が残る「にっぽんのふるさと」福井を体感できるよう、「ふるさと百景」を活かした観光ツアーの商品企画に取り組むほか、伝統工芸などものづくり体験を柱とする産業観光や、ふくい「食」を体感できる農業・漁業など、福井の魅力を強力に売り込みます。

また、学生合宿のメッカを目指し、関西・中京圏の大学への営業訪問を拡大し、昨年度誘致に成功した延べ4万人をベースとして、学生合宿を拡大します。

本格的な漁業体験や漁家民宿の分宿体制での受入といった本県ならではのプログラムを売込み、都市圏や台湾の中学・高校の修学旅行等を誘致します。

さらに、コンベンションの誘致については、福井県コンベンション誘致促進会議を中心に、省庁や都市圏の大学・学術機関、各種団体などへの営業訪問活動を強化し、宿泊客の増加に努めます。

県外からの教育旅行者数	64,000人
(平成23年 58,500人)	チャレンジ目標 70,000人
県内におけるコンベンション開催件数	250回
(平成23年度 235回)	チャレンジ目標 260回

・もてなし産業化の推進

地域の観光地づくりを推進する人材発掘や交流拡大を行うほか、「観光おもてなし認定者」を増加させます。

また、観光ガイド経験者へのレベルアップ研修（7月）や、独自のコーチング技術に定評があるテーマパーク事業者と連携したガイド講座の開設（8月）などにより、ファミリー層もさらに楽しめる観光ガイドを増やします。

さらに、観光客の目線に立った満足度調査や、「おもてなし評価システム」の研究を行い、その成果を観光施設等に反映させるなど、本県のもてなし力をステージアップさせます。

観光もてなし認定者の数（新規認定）	100人
（平成23年度末 185人（年間平均新規認定者数 93人））	

2 豊かな環境、もっと豊かに

◇ 景観を県民資産に

・ 景観資源の保全と活用【部局連携】

ふるさと福井の美しい景観を守り育てていくため、「福井ふるさと百景活動団体」や「伝統的民家群保存活用推進地区」を倍増させ、地域住民が行う百景ビューポイントの整備や植栽活動などへの支援を通じ、地域活動の輪を広げます。

福井が誇る文化や景観を県内外に発信するため、県内市町や文化施設のほか、県外観光イベントなどの場を活用した「福井ふるさと百景展」を年間通じて展開します。

景観づくり活動に取り組む団体数	累計 12団体
（平成23年度 6団体）	
伝統的民家の集積を活かした街並みや集落景観の保存活用に取り組む地区数	
（平成23年度 6地区）	累計 12地区

3 生活のなかに楽しむ県民文化

◇ 生活に福井の文化

・子どもたちが一流の芸術・文化に触れる機会をさらに拡充

子どもたちが学校、地域において、身近に芸術・文化活動に親しむことができるよう、県立美術館の所蔵作品を活用した学校等での鑑賞授業や、地域の文化会館等での子ども向けコンサートの開催、地元の文化活動者による児童館等での体験講座などを拡充します。

小学校5年生全員に、県立音楽堂での本格的なオーケストラコンサートなど本物の芸術文化に触れる機会を提供するとともに、中高生などが一流のアーティストから指導を受ける場を拡充します。また、プロの指導者による弦楽器奏者の育成を強化します。

一級の芸術・文化を体験する子どもの数	70,000人
(平成23年度 68,531人)	

・歴史博物館、美術館、若狭歴史民俗資料館の活性化

「歴史博物館」では、泰澄ゆかりの仏像等を展示する特別展を秋に開催し、「白山文化」に関する調査研究成果を県内外に発信します。開催に合わせ、関連する資料の寄託を進めるとともに、泰澄ゆかりの地を学芸員が案内する見学ツアーを開催します。

「美術館」では、春にストラスブール美術館展、夏休みに親子向けの体験型の展覧会を開催し、県外からの誘客を強化するなど、新たな利用者層の開拓に努めます。また、平成25年秋の岡倉天心ゆかりの美術品を一堂に集める特別展開催に向け、資料調査などの準備を進めます。

「若狭歴史民俗資料館」では、普段見ることができない嶺南地域の文化財公開を進めるほか、嶺南の文化観光のゲートウェイ機能を持つ中核施設とするリニューアルの検討を進めます。

このほか、学校との連携を一層強化し、学校への出前授業、夏休みに親子で鑑賞するキッズミュージアムを拡大して実施します。

歴史博物館の入館者数	85,000人
(平成23年度 77,762人)	
美術館の入館者数	202,000人
(平成23年度 184,060人)	
若狭歴史民俗資料館の入館者数	23,000人
(平成23年度 21,037人)	

4 「希望ふくい」のふるさとづくり

◇ 「にっぽんのふるさと」福井の発信

・人材ネットワークの拡大【部局連携】

本県ゆかりの人やイベント等で来県した著名人、各界の第一人者とのつながりを深め、著名人等を介して、福井の良さや魅力を国内外に発信します。また、ネットワークを活用して新しい政策を立案します。

◇ 選ばれるふるさと

・「ふるさと帰住」政策のスケールアップ【共同研究】

市町と共働して、空き家を活用した定住・交流の拠点施設を整備し、県外在住者に宿泊体験等の機会を提供することにより、県外から福井県への定住を促進します。

また、定住者の生活全般にわたる支援を行う地域活動団体等との共働による取組みを全県下に拡大し、定住希望者の相談体制の充実を図ります。

さらに、県外大学の学生ゼミ等と連携して、地域におけるふるさと帰住の取組みに学生等の若い力を積極的に活用することにより、受け入れ地域の活性化を図ります。

「新ふくい人」の数	320人
(平成23年度 302人)	チャレンジ目標 330人

・「ふるさと貢献」の推進

ふるさと納税については、全国から福井県へのリピーター確保に重点をおいて営業活動を行うことにより、全国トップクラスの実績を目指します。

さらに県のイベント等にあわせて、幅広くふるさと納税をPRすることにより寄付文化の普及浸透を図っていきます。

また、ふるさと納税制度が、寄付者にとってより利用しやすい制度となるよう、年末調整で控除できる仕組みの実現などを他県と連携して国に強く働きかけ、「福井発ふるさと納税」の一層の普及、定着を図ります。

ふるさと納税寄付金の寄付額	75,000千円
(平成23年度 63,858千円)	チャレンジ目標 80,000千円

・県民のグローバルマインドとスキルのレベルアップ

多くの県民がグローバル社会の中で活躍できるよう、各国大使館等の協力を得ながら県民向けのグローバルセミナーを開催するほか、海外からの研修生や留学生の受け入れを様々な組織で積極的に行い、外国人とふれあう機会を増やします。

グローバルセミナーの開催数	2回
(平成23年度 2回)	